

問題 次の文章を読んで、あなたがその場にいたら、教師としてどう対応するか。
また、それを踏まえて、現代の子ども理解について、あなたはどうか考えるか。
900字以内で述べよ。

誰もいない中学校の教室の壁に、週に何回か、場所と時間を変えて「牛乳パック爆弾」が投げられていた。いったい誰が「犯人」なのかといろいろな憶測が飛んだ。

そんなある日、突然、「爆弾」を投げている現場が見つかり、「犯人」がわかった。それは「おとなしい、ふつうの男子生徒」だった。

しかし、何よりその場にいた先生を驚かせたのは、投げた理由を聞いたとき、その生徒が「僕はしていません」「証拠がないから僕じゃない」と言い合ったことであつた。

(岩宮恵子『フツーの子の思春期』、岩波書店、2009年より要約)

【助言 = この問題のポイント】

ポイント1

「犯人」が予想もしなかった「おとなしい、ふつうの子」であつた事実から
指導の定石は、この子どもの内面(変化)を理解することが優先課題

ポイント2

「牛乳パック爆弾」(マーキング)に込められた行為から
指導の定石は、その象徴的な行為の意味(自己存在)を理解することが重要

ポイント3

「僕はしていません」「証拠がないから僕じゃない」と言い合ったことから
事実を指摘しても、それを認めようとしない子どもの出現

ポイント4

そうした言動の裏側には何が存在しているのか

子どもの葛藤・悩み(数値化されない)に向きってくれない親の出現

その背景に、親の子育て不安・孤立化の高まり

自分の葛藤・悩みに向き合ってくれる「ひとの存在」がなければ、葛藤・悩みを抱え込まず、事実を消し去る(リセットする)ことで対処へ

ポイント5

……